

実践のまとめ（小学校４年 国語科）

授業公開日 令和６年１０月３０日第５校時

指導者 村上市立小川小学校

教諭 平岡 奈緒

１ 研究テーマ

伝え合う力を高める子の育成

～「話すこと・聞くこと」の領域における話し合い活動をとおして～

２ 研究テーマについて

（１）研究テーマ設定の意図

学習指導要領（平成２９年告示）、国語科の目標では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力として、「伝え合う力」を高め、思考力や想像力を養うことが重要とされている。１年次の研修では、文学的・説明的文章（「読むこと」）の教材を活用し、話し合い活動を意図的に取り入れ、学びを自覚した振り返りの記述について研修を行った。自分の考えを伝えることはもちろんのこと、友達の考えを聞いた上で、再度考えを比較・検討を行うという活動を中心に授業展開を考えてきたが、学年によって若しくは単元によって自分の考えを伝える方法が異なったり、聞く側の受け取り方が統一されなかったりして、うまく「伝え合う」ことができない時もあった。そこで、児童の「伝え合う力を高める」ために、話すため・聞くための技法を身に付けることやグループだけでなくクラス全体で話し合うことを通して、よりよい話し合いを意識させていくことで、児童自身が伝え合い・話し合いを楽しいと感じ、「もっと伝えたい・知りたい・話し合いたい」という意欲をもつことにつながるのではないかと考える。また、今回は「話すこと・聞くこと」の領域に特化して研究を進めるが、自分の考えを「話せる（伝えることができる）」ということと他者の考えを「聞く」ということ、また、話し合って答えを一つに決めることなどは、他教科等においても取り入れられることが多いため、このような学習を繰り返し行うことで、様々な学習に活用できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

（２）研究テーマに迫るために

- ① 人との伝え合いを行う際に「５つの視点」を意識させた授業を行う。

５つの視点とは、①相手意識（だれにつたえるのか）

②目的意識（何のために伝えるのか）

③場面意識（どんな状況で何人ぐらいいるのか）

④方法意識（どんな方法で伝えるのか）

⑤評価意識（しっかり伝えることができたか）

この５つを児童に意識させることにより、児童が伝えたい内容をより明確にすると同時に、相手を尊重する気持ちをもつことができると考える。

- ② 「話し方・聞き方・司会の仕方」の技能の習得

「話し方・聞き方・司会の仕方」については、いつでも児童自身が話し合いの授業で確認をしたり、授業後の振り返りとして見返したりできるように、掲示資料を活用する。何度も繰り返

し学習することで、それぞれの立場に合った伝え合いの技能を習得できると考える。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ① 目的意識をもって積極的に自分の考えを話すことができる児童が増える。
- ② 話し方・聞き方・司会の仕方を理解し、話し合い活動が楽しいと感じる児童が増える。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

役わりをいしきしながら話し合おう（小学校国語四年下 光村図書）
「クラスみんなで決めるには」

(2) 単元の目標

- ・ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うことができる。【知識及び技能（2）イ】
- ・ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。【思考力・判断力・表現力等A（1）オ】
- ・ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 観点を明確にして比較や分類をしたり、目的を意識して必要な語句を適切に捉えたりしている。【(2)イ】	・ 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。【A(1)オ】	・ 役割を果たしながら積極的に話し合い、言葉を通じて他者と関わり、みんなで話し合うための「話し合い方マニュアル」を協力して作りあげようとしている。

(4) 単元と児童

3年生では、少人数のグループで司会・記録・時間などの役割を果たしながら、意見を一つにまとめる学習を行った。日々の授業中では、話し合う場をたくさん設けてきたことで、上手に話し合いを進めることができると思っていたが、司会・記録・時間などの具体的な役割については初めて知ることが多かったため、かろうじて話し合いを進めることができて、意見の共通点や相違点に着目しながら話し合うまでに至らなかった。そこで、本単元では、これまで積み重ねてきた話し合いのスキルに加え、話し合う人数を増やし、複数の観点から意見をまとめる学習を行いたい。特に、互いの意見の共通点や相違点に着目し、多数決で意見をまとめるのではなく、多くの人が納得できる結果となるように展開していく。また、よりよい話し合いの進め方のために、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを尊重することが大切であると気付かせたい。その手立てとして、みんなで話し合うための「話し合い方マニュアル」を作成させ、どんな考えも認められ、誰もが話し合い活動を楽しみと感じ、積極的に活動する姿を期待する。

(5) 単元の構想

児童の思考

＜「見方・考え方」を働かせた姿＞
お楽しみ会で行う余興をみんなで決めるには、司会者・提案者・参加者の役割を理解し、その役割に応じた話し方をしたり、必要な情報は何か考えながら、話し合いを行ったりすること。

今までの学習
少人数（3人）で司会・記録・時間の役割を果たしながら、意見をまとめる。

レベルアップ!

本単元

人数を学級全体に拡大し、司会・記録・時間の役割を果たしながら、意見をまとめる。→多くの人が納得できる結論になるために、複数の観点から意見をまとめる。

話が續かない

話す人が同じ

人の意見を聞かない

理由を伝えるようにしよう

あまり積極的に話してなかったから、しっかりと意見を言おう

① 児童の意識調査（アンケート）

クラスみんな話し合う時に、今までの話し合う方法でいいかな？

② 議題の確認

お楽しみ会では、何をしたいかな？

個別最適な学び

ドッジボールがいいな

前にジェスチャーゲームが面白かったな

③④ 役割に応じた話し合いの準備をする
どんな役割があり、どんなことをすればいいのか。
どんなことに気をつけて話し合いをすればよいか。

「深める問い」

よりよい話し合いの進め方のために大切なことは何か？
動画を見ながら考える。(NHK for School)

司会
記録
時間

司会は、話を
進める人

どんなことに気をつけて話し合えばよかったかな？

議題に関係ないことを言っていると、一つに決められないから、司会が話を戻すことが大切。

自分と違う考えに対して、相手の気持ちに立って、歩み寄り姿勢が大切。

決め方（観点）をみんなで確認をする。
・みんなで楽しめること ・45分以内に終わるもの
・勝ち負けに偏りがでないこと ・前回とは違うもの

協働的な学び

⑤⑥⑦ 話し合い活動（話し合いGとモニタリングGに分ける）

「話し合う」「見ている」の2つのグループに分かれ、実際に話し合ってみよう！

一つに決まらない時、どうしたらよいだろう

司会は難しそうだな

〇〇くんは、あんまり話をしていないから、司会が指名して上手だな

一人の意見だけで決めない。

決め方（観点）を確認しながら、司会が話を進める。

みんなが納得できるように理由を話す。

⑧⑨ ふりかえり（「話し合い方マニュアル」の作成）
みんなで話し合って決めるにはどうしたらよいかな？

4 本時の展開（本時6／9時間）

(1) ねらい

他者評価（モニタリンググループ）を受けることで、自己の話し合い方の姿を知り、その評価をもとに自己の振り返りができる。

(2) 展開の構想

学級全体を話し合いグループとモニタリンググループの2つに分け、役割や決め方（観点）に応じて話し合いを行う。前時に一度行っているの、本時では立場を入れ替えた授業となる。

話し合いGでは、役割や決め方の確認、よりよい話し合いができたかどうかなどを評価観点とする。モニタリングGは、話し合いGと同様の評価を行うが、他者評価となるため、客観的な評価となると思われる。「自分ではしっかりやっているつもりでも、他者からみると・・・」という話し合いGの新たな気づきを期待する。

話し合いGに評価するモニタリングGも、役割や決め方（観点）、よりよい話し合い方を理解していなければ評価することができないため、話し合う側・見る側の立場が変わっても「よりよい話し合いを行うために大切なこと」という目的は達成できると考える。

次時では、モニタリンググループを設けず、学級全体で話し合いを行う。(⑦)

(3) 展開

時間	・学習活動	○教師の主な働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価○支援◇留意点
5分	・ よりよい話し合いの進め方をもとに、それぞれの役割を意識しながら話し合うことを確かめる。	○ 前回の学習と立場が逆転することを確認し、よりよい話し合い方やそれぞれの役割について共通理解を図る。	○ 決め方（観点）や役割・よりよい話し合い方をいつでも確認できるように、拡大して掲示しておく。
	役割を意識しながら話し合おう（2回目）		
30分	・ 議題について話し合う。 ＜議題＞ お楽しみ会で行う余興を決める。 ＜進行計画＞ ①議題の確かめ（2分） ②意見を出し合う（5分） ③どうやって決めるのかを考える（決め方）（3分） ④どれにするのかを考える（10分） ⑤まとめる（2分） ・ 話し合いを振り返る	○ 効率よく話し合いをさせるために、時間係に進行計画に基づいて、時間を区切らせる。 ○ モニタリングGには、事前に評価観点カード配り、メモをさせながら話し合いを参観させる。 ○ 自己評価・他者評価を行い、発表をさせる。（電子黒板に掲示） 【自己評価】 ● 時間内に決めることができてよかった。 ● あまり自分の考えを言えなかった。 ● どうやって決めるかを思いつかなかったから、時間がかかってしまった。 ● みんなが納得してくれたから、すんなり決まってよかった。 【他者評価】 ● 司会はまだ少し大きな声で話したらいいと思う。	◇ 司会：進行計画どおりに進める。よりよい話し合いの上で、意見をまとめていく。 記録：みんなから出された意見を整理・分類しながらパソコンに記述。（電子黒板に写しながら） 時間：進行計画をみながら、時間を測る。 思考・判断・表現 □ 評価観点カードを基に、自己評価・他者評価できたか。（ICT活用） ◇ 自己評価は発表させず、他者評価のみを全体で共有する。 ◇ 他者評価では、相手の悪いところばかりに目を向けさせるわけではなく、「○○すればいい～」という代替案を必ず書くように指導する。

		● ○○さんは、話している人を見ながら聞いていてよかった。 ● ○○さんは一度も発表をしていなかった。 ● 理由を話していて、わかりやすかった。	
10分	・ 本時の振り返りをする。	○ 他者評価を聞いて次回の話し合い活動に生かしていきたい所や感想などを詳しくパソコンに記述する。	思考・判断・表現 □ 他者評価を基に、自己の話し合い方を振り返ることができたか。

(4) 評価

- ・ 評価観点カードを基に、自己評価・他者評価できたか。【思考・判断・表現 パソコン記述】
- ・ 他者評価を基に、自己の話し合い方を振り返ることができたか。【思考・判断・表現 パソコン記述】

5 成果と課題

(1) 授業の実際（指導の実際）

① 今までの話し合い活動を振り返る。（児童の意識調査アンケート）【第1次】

まず、今後の学習課題を明確にするためにも、児童に「意識調査アンケート」を行った。結果は、肯定的評価と否定的評価が半々となった。理由は、下記のとおりである。（図1）

【あまりない】

- ・ 自分の考えを話している。
- ・ 意見が分かれて、話のやりがいがある。
- ・ 話すことに慣れている。
- ・ 協力している。

【たまにある】

- ・ グループの人に話したこと...が通じていない。
- ・ 詳しく説明できない。
- ・ 人数が少なくて、案が出ない。（ほとんどの班が三人であるが、二人のところもある。）

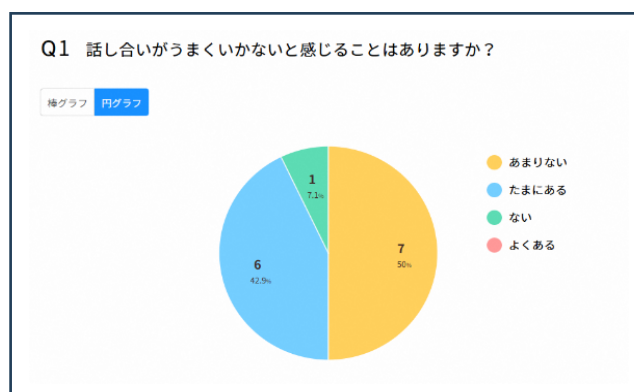


図1 児童の意識調査アンケートの結果

「うまくいっていない」と感じている児童の理由で、「話したことが通じていない」と感じると答えた子が多く、結果をみると自分の考えを詳しく説明できずに、話し合いを楽しむことができないということが分かった。

そこで、「うまくいっている」と答えた児童の「話し合いで気を付けていること」を全体で共有し、児童一人一人が自己の話し合い方を振り返りながら、同時に課題意識をもてるような場を設定した。全体で共有したことは、以下のとおりである。

1. 聞く：他の人の意見をちゃんと聞く。考えが違っていても納得する。すぐ「違う」と言わない。
2. 話す：言いたいことをまとめる、整理する。一番伝えたいことを中心に話す。相手が分かりやすいように、詳しく、図にかいて説明する。司会の役割や「五つの視点」を見ながら話す。

「話す」と「聞く」のそれぞれに分けて考えさせた訳ではないが、児童自身が得意であると

感じた方の気づきを中心にあげたようである。他の人の気づきを知ることで、「今後自分はどんな話し合いをしたらよいか」と、児童自身が課題意識をもつことができた。

② 議題を確認し、役割に応じた話し合いの準備をする。【第2次】

議題としては、「お楽しみ会で何をするのか」という、児童の身の回りになる問題、かつ決定するための観点（決め方）をたくさん考えられるような議題を提示した。

話し合いの役割（司会・記録・時間・提案者・参加者）については、理解しやすいように、NHK for school（「お伝と伝じろう」）の動画を視聴した。「よりよい話し合いを進めるために大切なことは何か？」に気付けるように、「ア．何を話し合ったの？」「イ．ピンチ！意見が対立」を視聴した。大切なことは以下のとおりである。

「ア．何を話し合ったの？」⇒話し合いをスムーズに行うためのポイントを提示

- ・テーマに沿って話すこと。
- ・話の流れを「見える化」（付箋に書く）すること。
- ・出た意見を「グループ化」すること（意見を絞り込む）。

「イ．ピンチ！意見が対立」⇒意見が対立したときの対処の仕方

- ・「田の字チャート」（違う意見のいいところを見付ける）
- ・相手の気持ちに立って考える。（歩み寄る姿勢が大切）

また、教科書にある二次元コードの動画を視聴しながら、それぞれの役割について理解を深めた。

実際に話し合う際には、自己評価と他者評価の観点から、自己の話し合う姿を評価・改善させるために、クラス全体を「話し合いグループ」と「モニタリンググループ」の2分割し、振り返りカード（図2）を評価基準として学習を進めた。役割についての確認はもちろんのこと、よりよい話し合いの進め方を常に意識させることができた。

本時では、前時のグループの立場を入れ替えた授業となり、前時の課題を受けて改善したものとなっていた。

改善箇所：立場を明らかにする。（賛成・反対）

時間の配分。

田の字チャートを使う。

もっとみんなで意見を言う。

話し合い：モニタリング		名前
司会		
①	司会の進行マニュアルを見て、話し合いを進めることができたか。	
②	多くの参加者の意見が出るように、工夫して進められたか。	
	どんな工夫をしたのか。	
記録		
①	出された意見や、どうやって決めるかなどをタブレットで整理して示すことができたか。	
②	意見が分かれたときに、表や田の字チャートなどを活用して、理由を整理しながら、示すことができたか。	
③	分かりやすく示すために、どんな工夫をしたのか。	
時計		
①	決められた時間内に話し合いが進むように、司会に時間を教えることができたか。	
②	時間通り進められるために、どんな工夫をしたのか。	
提案者・参加者		
①	考えとその理由を言うことができたか。	
②	他の人の意見を受けているのか、ちがうことを話すのか、初めに言うことができたか。	
③	自分の立場を明らかにしてから、考えを話すことができたか。 （例えば：〇〇さんの考えに、賛成です。 反対です。 など）	
④	聞いている人に分かってもらえるように、どんな工夫をしたのか。	

図2 振り返りカード

実際には、グループを構成している人や、役割を担う人によって、発言量に多少の偏りがあったが、一人一人が自分の役割をよく理解し、よりよい話し合いをすることができた。

クラス全体で話し合いを行うと、意見が一つにまとまらずに悪戦苦闘した。原因として考えられるのは、単純に人数が増えたことで選択肢が多くなり、考えを絞ることが難しくなったことである。多数決方式で課題を解決するわけではなく、「みんなが納得できるような結論を

出す」ことを目標としていたので、理由をたくさん挙げたり、決め方の工夫をしたりしなければならなかった。どんな場面で、どんな話合いが適当か、などの見極めも必要であると考ええる。まだまだ練習が必要であると感じた。

- ③ 学習のまとめとして、「話し合いマニュアル」を作成する。【第3次】
今までの学習を振り返り、よりよい話合いの進め方に必要なことを、みんなで確認し、「話し合いマニュアル」としてまとめた。(図3)

- ① 相手の気持ちになって考える。(言い合いになって、怒ることがないように)

② 決め方を工夫する。決まりやすいように。

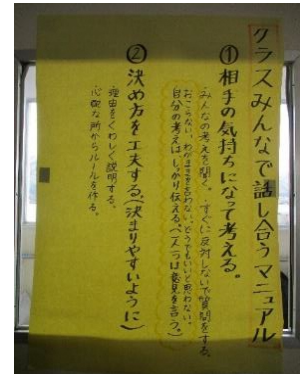


図3 教室に掲示

(2) 研究テーマに関わって

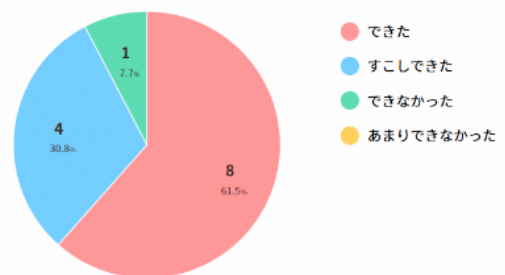
研究結果に関する評価結果は以下のとおりである。

【目的意識をもって積極的に自分の考えを話すことができる児童が増える】

- ① 実際自分の考えを話す児童は固定化され、話すことが得意な子は少ないように感じた。そこで、話し方を学び、どんな話も受け入れられる環境を児童自らつくり上げていくことで、今よりも児童が積極的に話をするようになるのではないかと考え、授業を計画した。

Q3 目的にそってせっきよくてきに 自分の考えを言うことができたか。

棒グラフ 円グラフ



アンケートの結果では、積極的に

自分の考えを言うことができた肯定的に捉えている児童は92.3%である。その理由として「みんなが言っているから」「同じ考えの人がいたから」「みんなが聞いてくれる」「立場をはっきりさせたから言いやすい」など、環境の改善や話し方の習得によってできるようになったと答える児童が多くいた。学習の成果であると思われる。

【話し方・聞き方・司会の仕方を理解し、話合い活動が楽しいと感じる児童が増える】

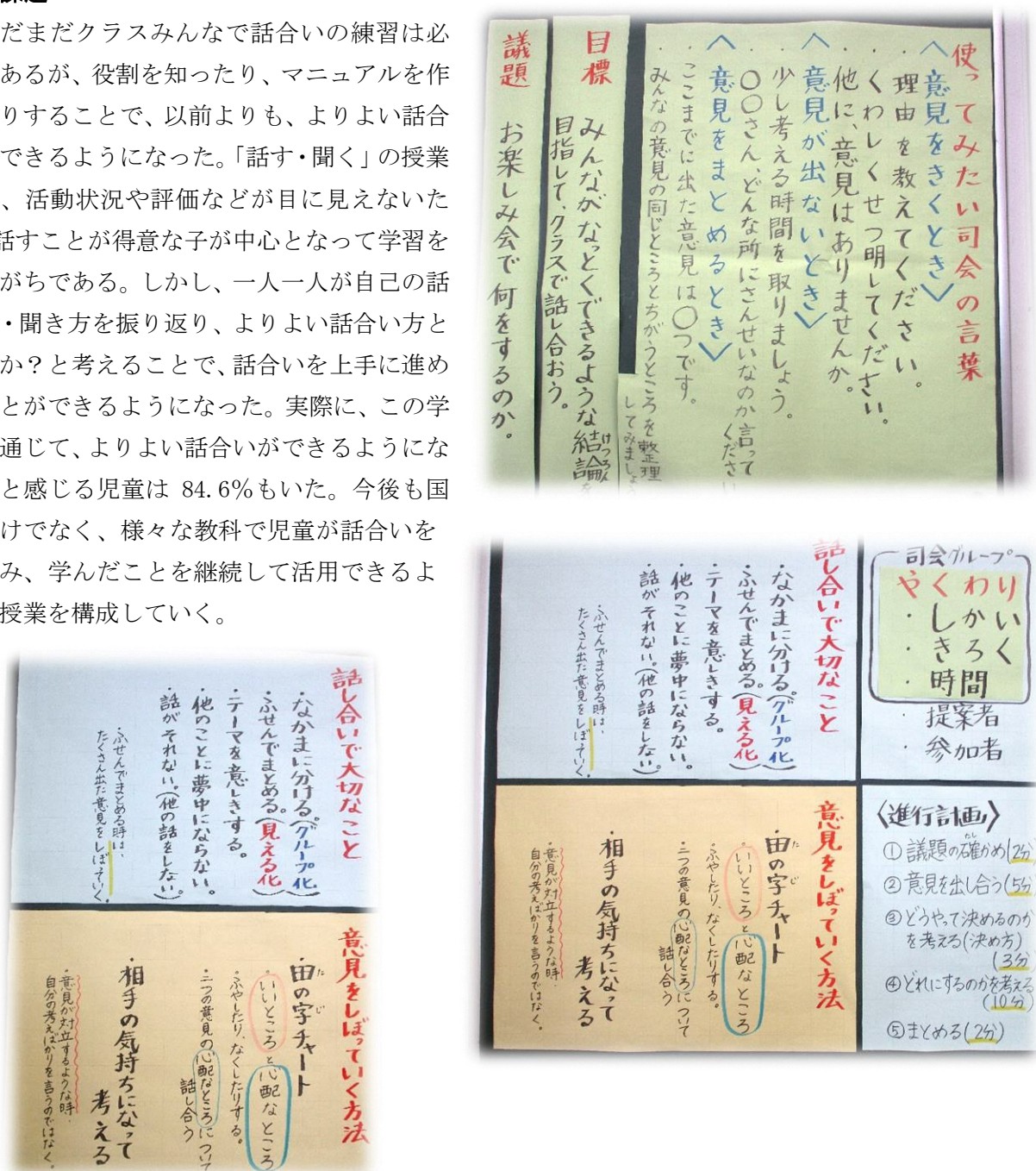
- ② 話し合う回数が少なかったために、全ての役割を全員が体験することはできなかったが、「役割を理解することができた」と答えた児童は92.3%であった。実際に学習活動では、どの児童も自分の役割を確認し、話合い活動をする姿が見られた。特に参加者の役割では、割り当てられた人数が多くなるので、積極的に自分の考えを言わないと、何も言わずに話合いが進んでしまう。そのため、「まずは、自分の考えを一つは言う」という目標を立て取り組む姿も見られた。(最後に作成した「話し合いマニュアル」の中の項目の一つにもなっている。)

クラスみんなで話し合うことが楽しいと答えた児童は92.3%となり、理由として挙げられたのが「みんなで話すことが好き」「みんなの意見が聞けるから楽しみ」であった。中には「反対されると何も言えない」「意見が違くと納得されない」など、否定的な意見もあったが、逆に「対立して理由が聞けて、おもしろい。考えが一致すると嬉しい気持ちになる」と答えている児童もいた。

(3) 今後の課題

まだまだクラスみんなで話合いの練習は必要であるが、役割を知ったり、マニュアルを作ったりすることで、以前よりも、よりよい話合いができるようになった。「話す・聞く」の授業では、活動状況や評価などが目に見えないため、話すことが得意な子が中心となって学習を進めがちである。しかし、一人一人が自己の話し方・聞き方を振り返り、よりよい話合い方とは何か？と考えることで、話合いを上手に進めることができるようになった。実際に、この学習を通じて、よりよい話合いができるようになったと感じる児童は 84.6%もいた。今後も国語だけでなく、様々な教科で児童が話合いを楽しみ、学んだことを継続して活用できるよう、授業を構成していく。

教室掲示



<参考文献>

- 文部科学省 (2008. 8) 『小学校学習指導要領解説 国語編』
 光村図書 (2024. 2) 『小学校国語 学習指導書 4下』
 小森 茂 著 (1999. 6) 『「伝え合う力」の育成と音声言語の重視』
 光村図書 『特集 個別最適な学びと協働的な学びの実現』
 光村図書出版 『クラスみんなで決めるには』